

644 レクチンの核医学的癌診断への応用に関する 基礎的検討

安倍美和、藤島博、小島周二、久保寺昭子（東京理科大学・生命研・薬）

レクチンは動物や植物組織などから得られる糖タンパク質で細胞表面の複合糖質を認識して細胞と結合することが知られている。そこで本研究では、レクチンの糖結合特異性に着目し、癌の核医学的診断への応用を目的として種々の動物およびヒト癌細胞におけるレクチンとの結合活性および生体内動態についての基礎的検討を行った。この結果、インビトロにおいてマンノース認識レクチンであるP S A、L C H、C o n Aにエールリッヒ癌細胞をはじめ、ヒト大腸癌細胞（LS-174T）やヒト胃癌細胞（HGC-27）との高結合活性が見られた。さらに、これらレクチンについて担癌マウスにおける生体内動態を詳細に検討した。